

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム マナーハウス麻溝台	階数	地上3F
建設地	相模原市南区下溝三ノ原3016番 外	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、用途指定・防火指定なし	平均居住人員	140 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年12月1日
敷地面積	7,660 m ²	作成者	株式会社 奥野設計
建築面積	2,995 m ²	確認日	
延床面積	7,738 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	95%
③上記+②以外の	95%
④上記+	95%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

音環境	3.1
温熱環境	2.1
光・視環境	2.1
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	3.6
耐用性	3.0
対応性	2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	4.8
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	3.2
汚染物質	1.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.2
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 バルコニー・飾り壁により壁面を分節して単調なファサードにならないようにデザインした、又敷地内には豊かな緑地帯を設け、アメニティ豊かな環境づくりを施しました		特になし
Q1 室内環境 マルチユニット型ヒートポンプ方式の採用、大きい開口部による有効的な昼光利用と庇、ブラインド等による昼光制御を図ることで快適な室内環境の構築に配慮した。	Q2 サービス性能 各居室を広さ・ゆとりのある空間とし、建物全体は明確なコンセプトにより計画を進めた。各設備機器は災害時や非常時にも最低限機能するような配慮を施した。	Q3 室外環境(敷地内) 地域交流スペースを設置することで周辺住民も建物を活用できるように配慮した。
LR1 エネルギー 開口を多く確保することにより、自然の採光・換気を活用できるように配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を採用することで節水に配慮した。人体への健康や地球環境に配慮した材料を採用するよう心掛けた。	LR3 敷地外環境 周辺道路に渋滞や路上駐車などを発生させない為に適切な駐車スペースを確保した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される